

ArcGIS®

ArcGIS® Experience Builder:

Business Analyst ウィジェット
ワークフロー モード チュートリアル

目次

第 1 章 チュートリアル概要	3
はじめに	4
ワークフロー モード	4
シナリオ	4
第 2 章 Web アプリの作成	5
本章の目的	6
ステップ 1: Web アプリの新規作成	6
ステップ 2: マップ ウィジェットの追加	9
ステップ 3: Business Analyst ウィジェットの追加	11
ステップ 4: Web アプリの保存	16
第 3 章 Web アプリの公開と表示	17
本章の目的	18
ステップ 1: Web アプリの公開と ArcGIS Experience Builder からの表示	18
ステップ 2: ホーム画面から Web アプリを表示	19
第 4 章 Web アプリの操作	22
本章の目的	23
ステップ 1: 地名の検索	23
ステップ 2: ポイントの描画	27
ステップ 3: ポリゴンの描画	30

アイコンの説明



ノート：特定のトピック、手順に関する追加の情報、例外事項や特記事項を示します。



ティップス：概念の理解や手順を実行するための簡単なヘルプです。

A decorative header featuring a blue geometric pattern of triangles and polygons, transitioning from a darker blue at the top to a lighter blue and white at the bottom.

1

チュートリアル概要

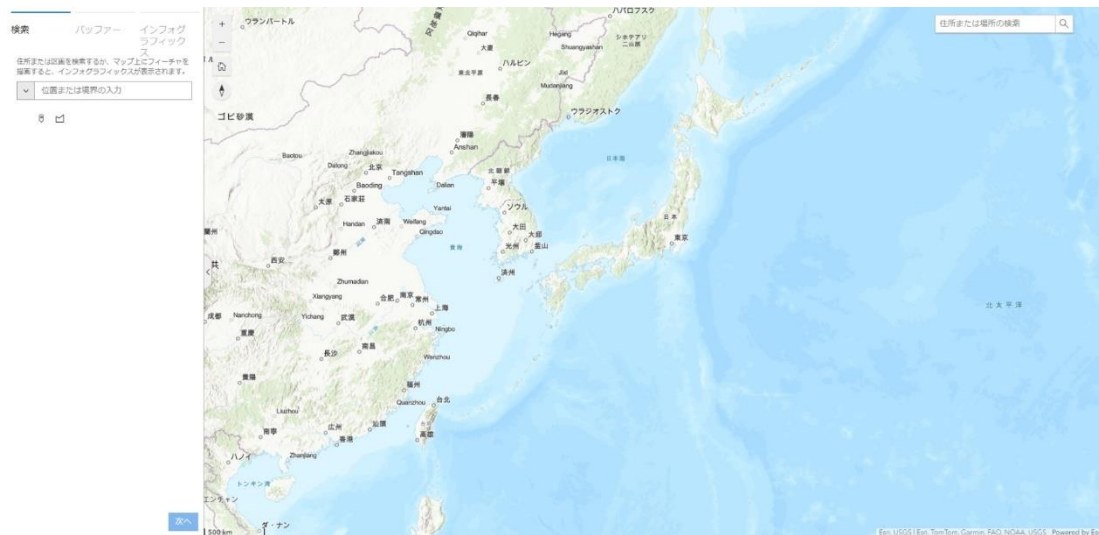
概要

- はじめに
- ワークフロー モード

はじめに

ArcGIS Experience Builder では、Business Analyst ウィジェットを使って「[インフォグラフィックス](#)」と呼ばれる動的な商圈レポートを任意の場所で行い、統計情報を把握することができます。

本チュートリアルでは、Business Analyst ウィジェットの「ワークフロー モード」の設定方法や実行方法をご紹介します。



ワークフロー モード

ワークフロー モードは、マップ上での選択地点や住所検索した地点から商圈を作成し、自由にインフォグラフィックスを実行できるモードです。設定する方法について、以下のシナリオに沿って学習します。



Business Analyst ウィジェットには、ワークフロー モードのほかに、Web マップに追加されたポイント データや区画データを利用し、事前に設定したインフォグラフィックスを実行できる プリセット モードも搭載されています。プリセット モードのチュートリアルは[こちら](#)をご覧ください。

シナリオ

あなたは出版社に勤務しており、観光雑誌で北海道の駅周辺における飲食店の特集を組むことになりました。特集を組む駅を会議で決定するため、Web アプリ上で駅や駅周辺の区画を検索して周辺の飲食店を調査します。



2

Web アプリの作成

概要

- 本章の目的
- Web アプリの新規作成
- マップ ウィジェットの追加
- Business Analyst ウィジェットの追加
- Web アプリの保存

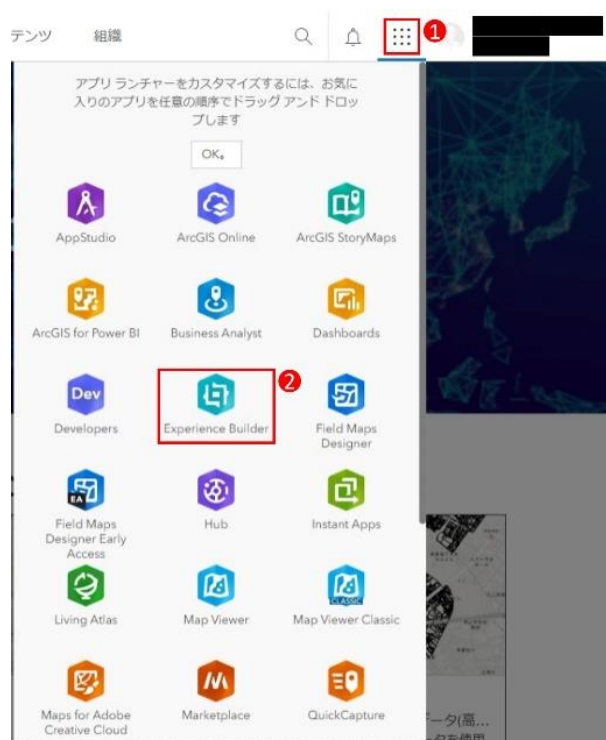
本章の目的

ArcGIS Experience Builder を使用して、会議で使用するための Web アプリを作成します。

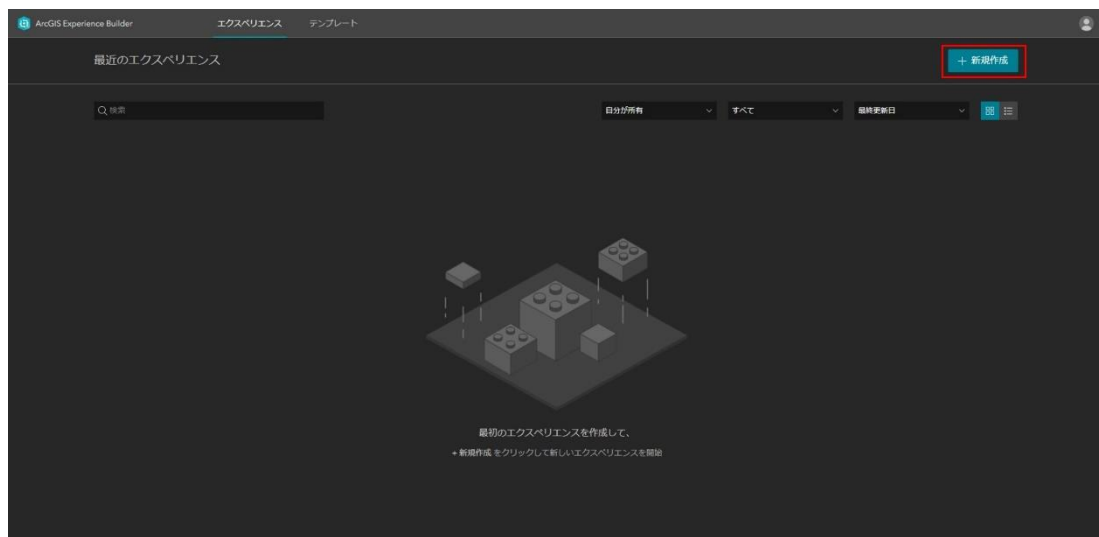
ステップ 1: Web アプリの新規作成

ArcGIS Experience Builder で Web アプリを作成し、アプリの画面の枠を準備します。

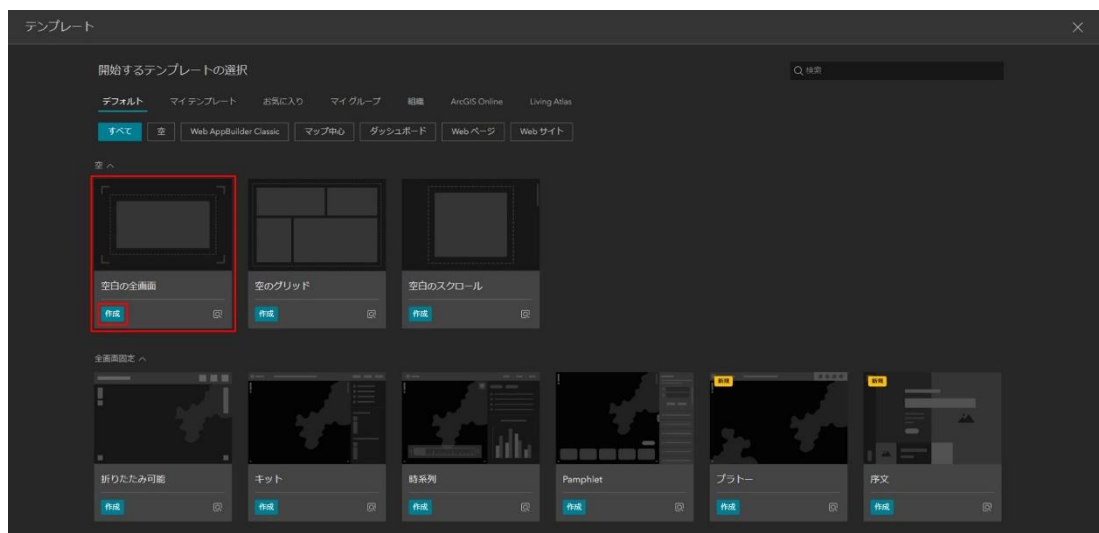
- ① ArcGIS Online ホーム画面の右上にある [アプリ ランチャー] をクリックし、[Experience Builder] を選択します。



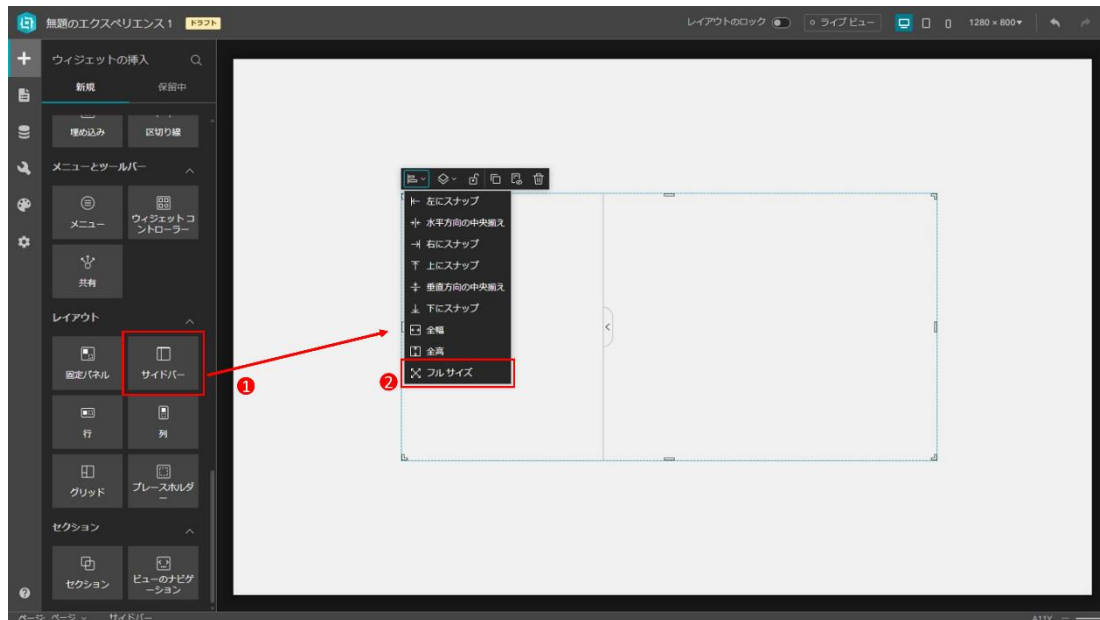
- ② [新規作成] をクリックします。



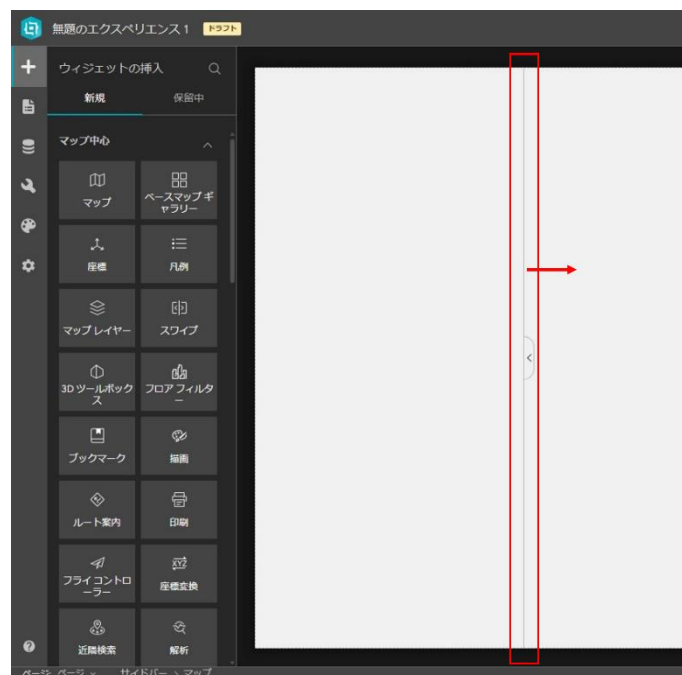
- ③ [空白の全画面] テンプレートの [作成] をクリックします。



- ④ [ウィジェットの挿入] ウィンドウから [サイドバー] ウィジェットをテンプレート上にドラッグします。
- ⑤ ツールバーの [配置] から、[フルサイズ] を選択します。



- ⑥ [サイド パネル] の右端をドラッグして [サイド パネル] を広げておきます。

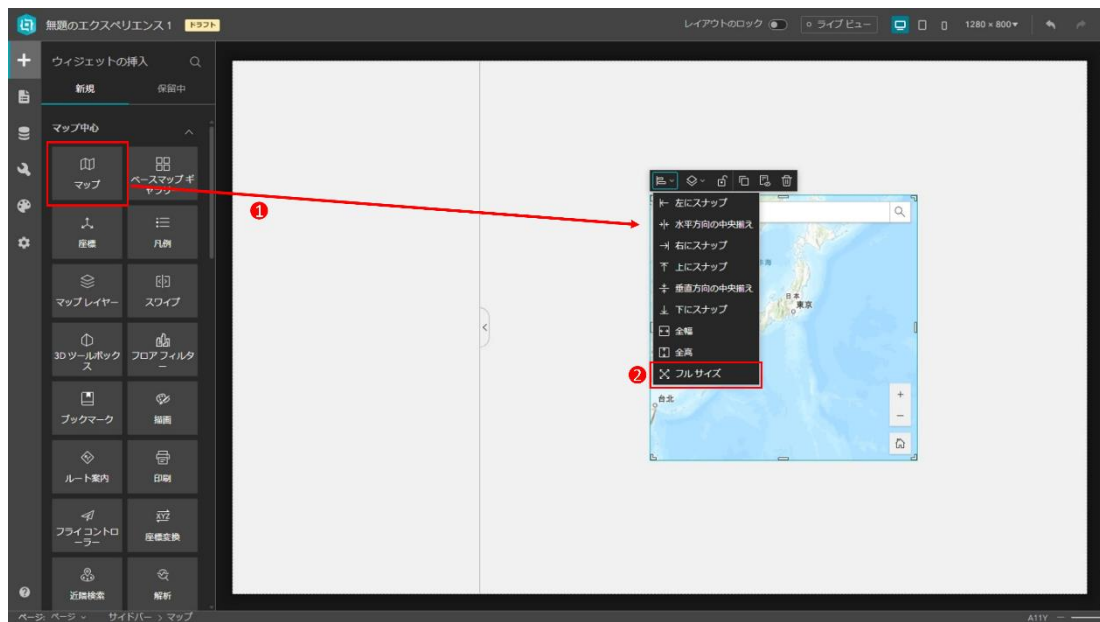


以上で、Web アプリ画面の枠が準備できました。

ステップ 2: マップ ウィジェットの追加

作成中のWeb アプリに [マップ] ウィジェットを追加します。

- ① [ウィジェットの挿入] ウィンドウから、[マップ] ウィジェットを [サイドバー] ウィジェットの右側にドラッグします。
- ② ツールバーの [配置] から、[フルサイズ] を選択します。



- ③ [マップ] ウィンドウの [ツール] で、[コンパス]、[背景地図]、[縮尺記号]をオンにします。



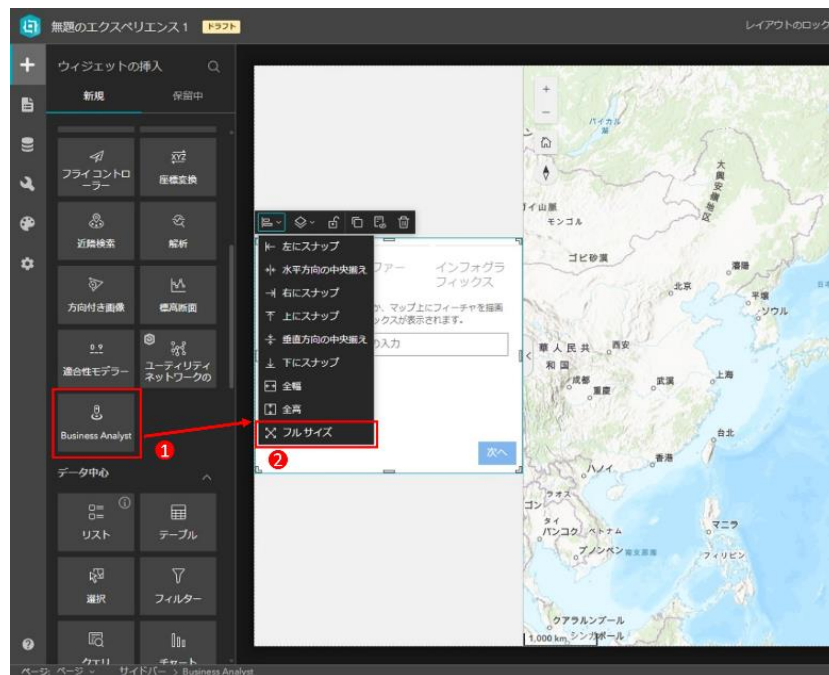
[コンパス] は Web マップの北がどこにあるかを示すため、[背景地図] は任意の背景地図に変更するため、[縮尺記号] は Web マップの縮尺を示すためにそれぞれ設定します。

以上で、Web マップの設定ができました。

ステップ 3: Business Analyst ウィジェットの追加

作成中の Web アプリに Business Analyst ウィジェットを追加します。

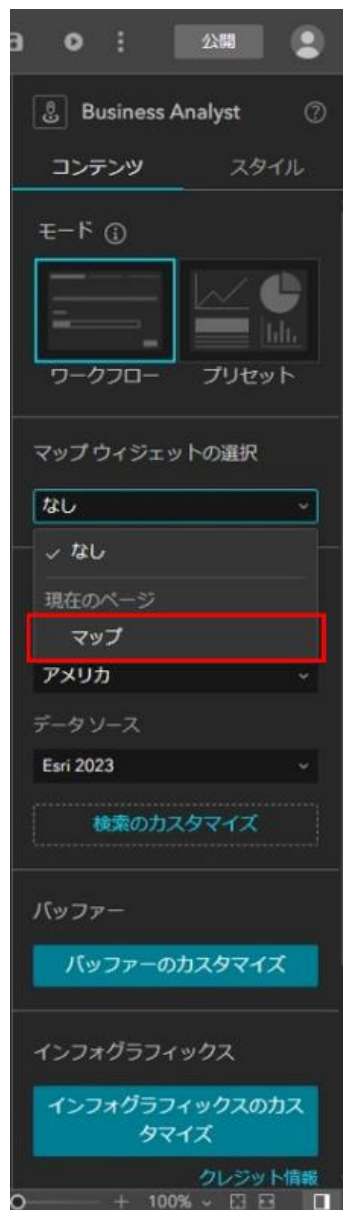
- ① [ウィジェットの挿入] ウィンドウから、[Business Analyst] ウィジェットを [サイドバー] ウィジェットの [サイドパネル] にドラッグします。
- ② ツールバーの [配置] から、[フルサイズ] を選択します。



- ③ [Business Analyst] ウィンドウの [モード] で [ワークフロー] を選択します。



- ④ [マップウィジェットの選択] でドロップダウン メニューをクリックし、[マップ] を選択します。



- ⑤ [位置の設定] のうち、[国または地域] で [日本] 、[データソース] で [Esri ジャパン] をそれぞれ選択します。



- ⑥ [インフォグラフィックスの設定] で [画像のエクスポート]、[ダイナミック HTML のエクスポート]、[Excel のエクスポート]、[PDF のエクスポート] をオフにします。



[画像のエクスポート]、[ダイナミック HTML のエクスポート]、[Excel のエクスポート]、[PDF のエクスポート] は、インフォグラフィックスのエクスポート方式に関するオプションです。各種エクスポートにはクレジットを消費します。今回は Web アプリを作成して会議で使用する事が目的であるため、余分にクレジットを消費しないようにオフにします。

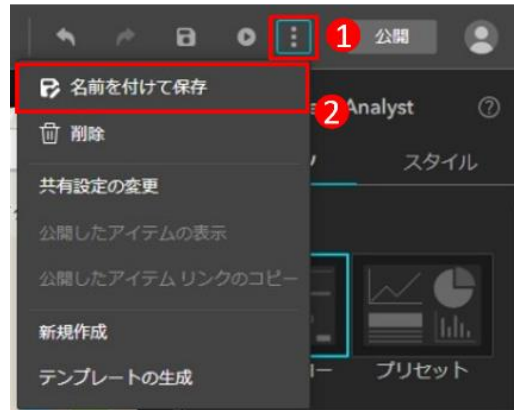
[クレジットの概要—ArcGIS Online ヘルプ | ドキュメント](#)

以上で、アプリ上の Web マップをクリックすると [Business Analyst] ウィジェットが動作するように設定ができました。

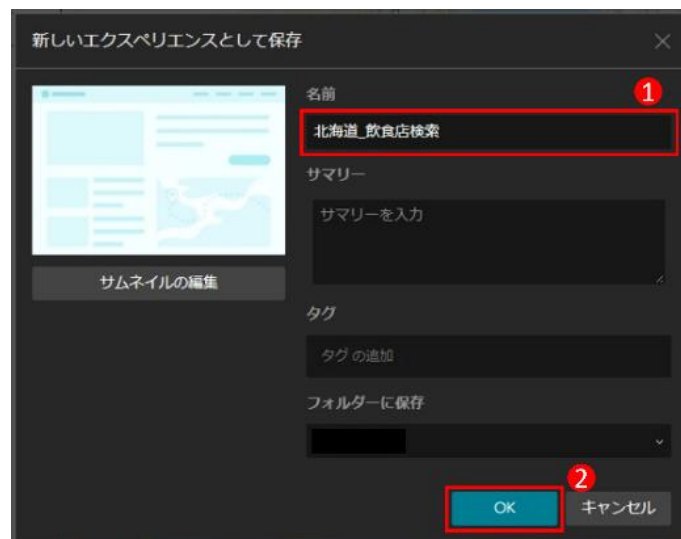
ステップ 4: Web アプリの保存

作成した Web アプリを保存します。

- ① リボンの [その他] ボタンをクリックし、[名前を付けて保存] をクリックします。



- ② [新しいエクスペリエンスとして保存] ダイアログが表示されたら、[名前] に「北海道_飲食店検索」と入力します。[OK] をクリックします。





3

Web アプリの公開と表示

概要

- 本章の目的
- Web アプリの公開と ArcGIS Experience Builder からの表示
- ホーム画面から Web アプリを表示

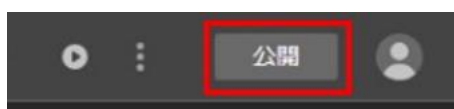
本章の目的

作成した Web アプリを公開し、公開した Web アプリを表示します。

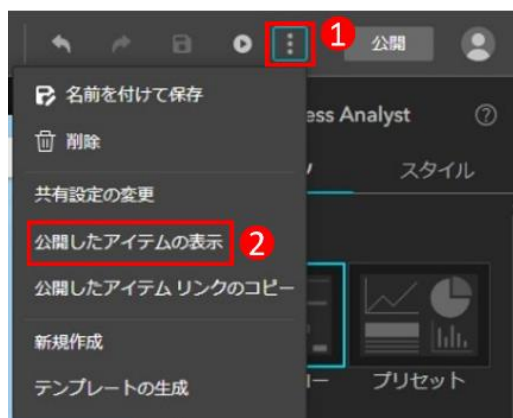
ステップ 1: Web アプリの公開と ArcGIS Experience Builder からの表示

作成した Web アプリを公開し、ArcGIS Experience Builder から表示します。

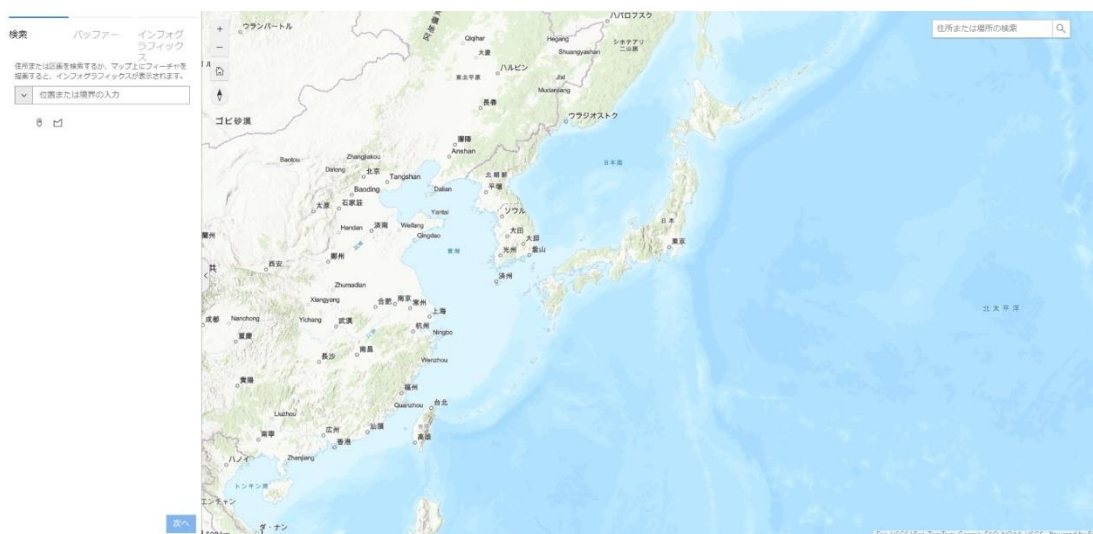
- ① リボンの [公開] ボタンをクリックします。



- ② [その他] ボタンをクリックし、[公開したアイテムの表示] をクリックします。



- ③ 作成した Web アプリが表示されます。



ステップ 2: ホーム画面から Web アプリを表示

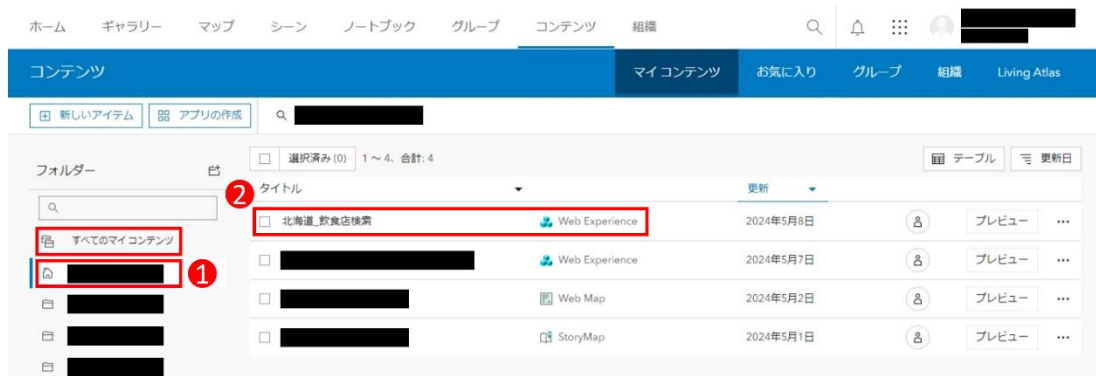
公開した Web アプリを ArcGIS Experience Builder を閉じた後に操作する場合は、以下の流れで Web アプリを開くことができます

- ① ホーム画面から [コンテンツ] タブをクリックします。



- ② [フォルダー] → [すべてのマイ コンテンツ] から、ユーザーネームの書かれたタブをクリックします。

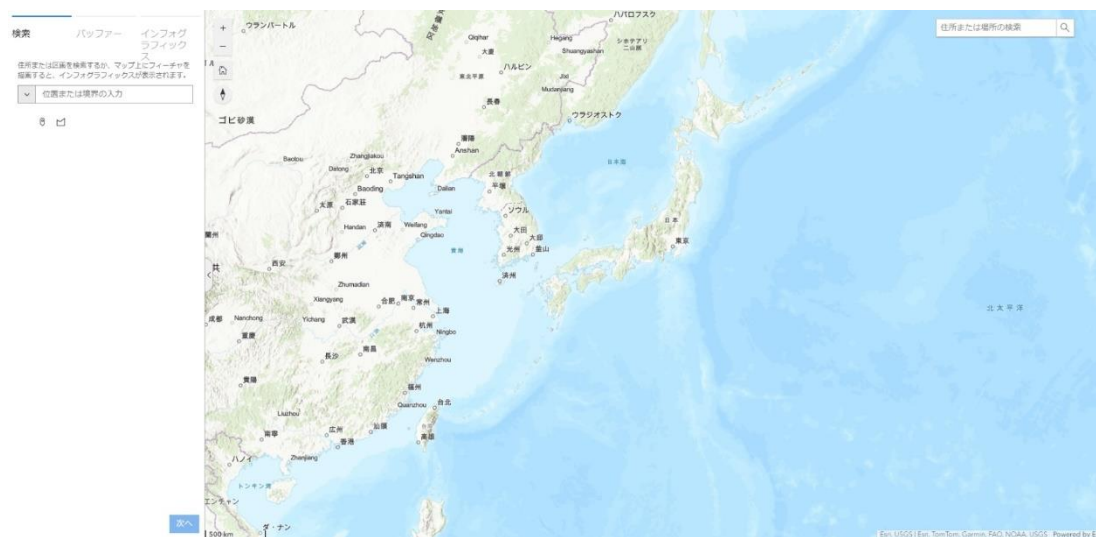
- ③ 作成した Web アプリをクリックします。



④ [表示] をクリックします。



⑤ 作成した Web アプリが表示されます。



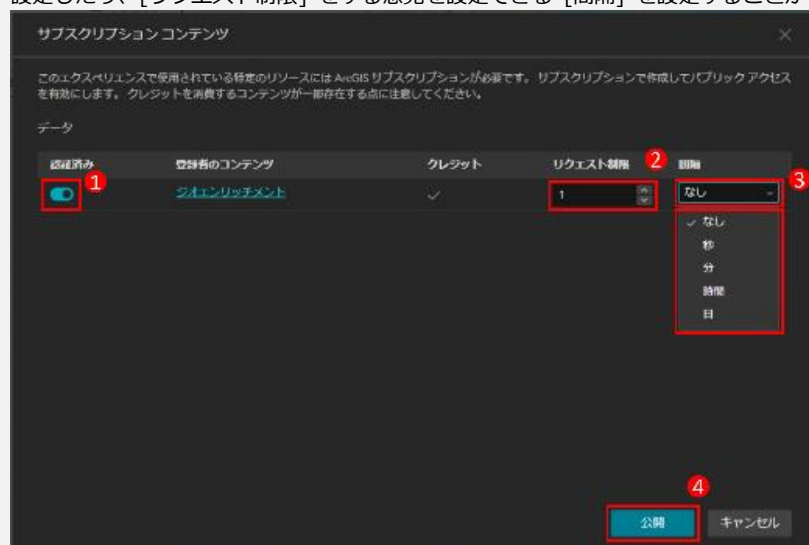
作成した Web アプリを組織内で共有する場合は、[こちら](#)をご覧ください。



Business Analyst ウィジェットの [Business Analyst] ウィンドウで、[ジオエンリッチメント] から [ユーティリティの選択] → [ジオエンリッチメント] をクリックすることで、ジオエンリッチメント ユーティリティ サービスを追加できます。ジオエンリッチメント ユーティリティ サービスを追加すると、Business Analyst ウィジェットの使用に必要な権限のない ArcGIS ユーザーとアプリを共有することができます。なお、ジオエンリッチメント ユーティリティ サービスにはクレジットを消費します。



[公開] ボタンをクリックすると、サブスクリプションを通じてアクセスを有効化するように求められます。[認証済み] をオンにすると、1 度にアクセスできる人数を制限できる [リクエスト制限] を設定したり、[リクエスト制限] をする感覚を設定できる [間隔] を設定することができます。



[Business Analyst ウィジェット—ArcGIS Experience Builder | ドキュメント](#)
[保存、プレビュー、公開—ArcGIS Experience Builder | ドキュメント](#)

4

Web アプリの操作

概要

- 本章の目的
- 地名の検索
- ポイントの描画
- ポリゴンの描画

本章の目的

作成した Web アプリを操作します。

なお、本章で行う以下の操作では、クレジットを消費します。

- インフォグラフィックスの表示 (0.01 クレジット)
インフォグラフィックスの表示には、1,000 回あたり 10 クレジットを消費します。



「リング」バッファーおよびポリゴンの作成にはクレジットを消費しません。ただし、「徒歩時間」バッファーと「運転時間」バッファーを含む到達圏の作成には、1 件あたり 0.5 クレジットを消費します。

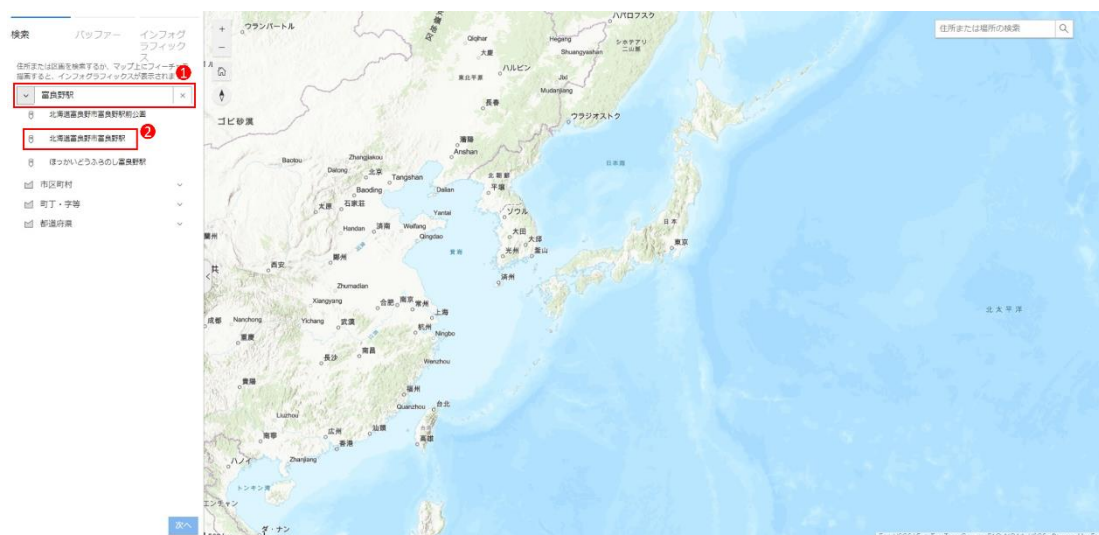
Business Analyst ウィジェットの初期設定では、「徒歩時間」バッファーまたは「運転時間」バッファーの作成を 1 回実行すると 3 重の到達圏が作成されます。この場合、到達圏の作成を 3 件実行したとみなされるため、1.5 クレジットを消費します。

[クレジットの概要—ArcGIS Online ヘルプ | ドキュメント](#)

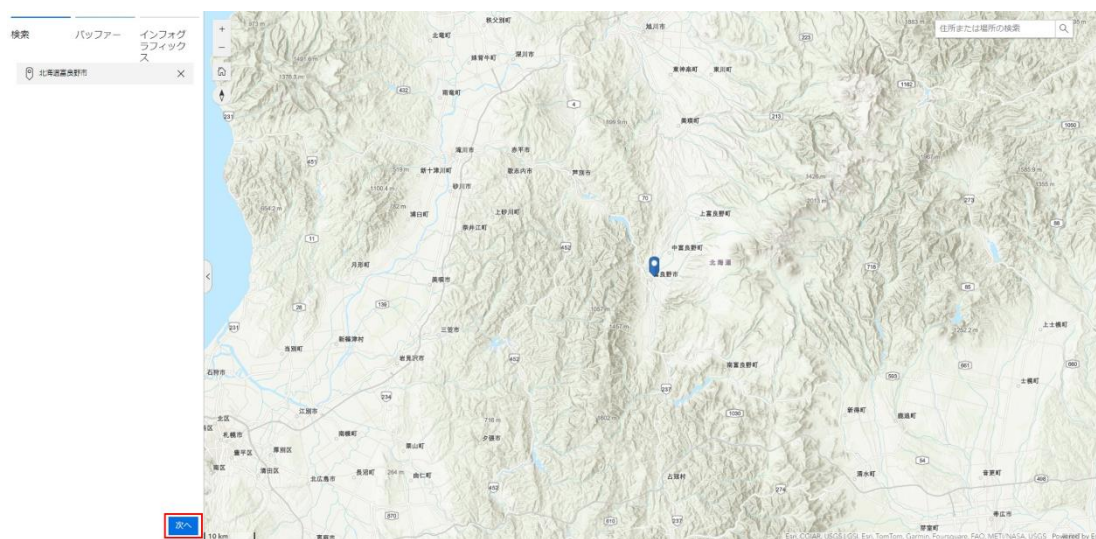
ステップ 1: 地名の検索

場所の名前や住所を検索して、その地点からバッファーおよびインフォグラフィックスを作成できます。

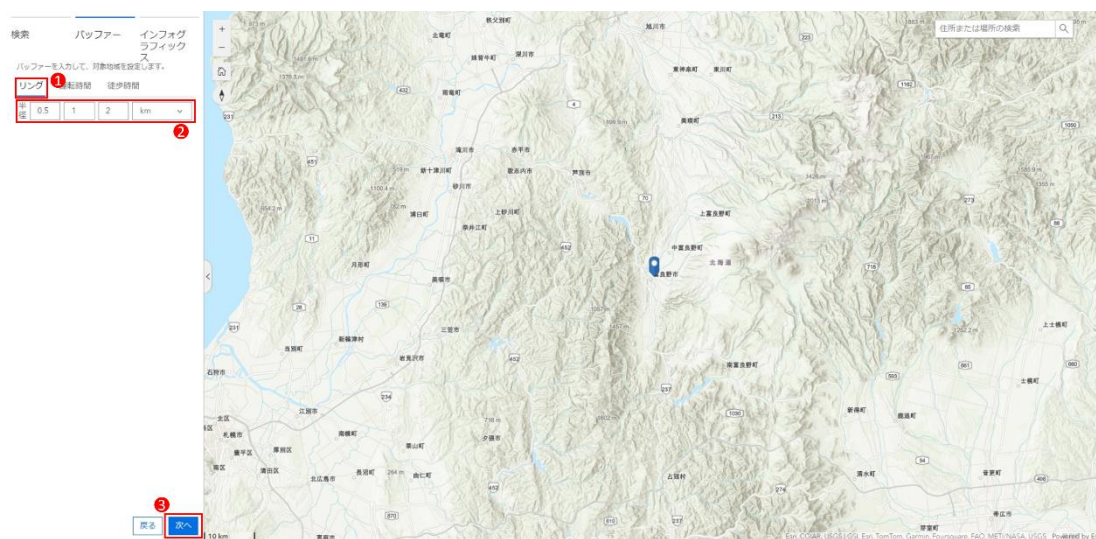
- ① [検索] タブで [位置または境界の入力] をクリックし、任意の地名を入力します。ここでは、「富良野駅」と入力して「北海道富良野市富良野駅」を選択します。



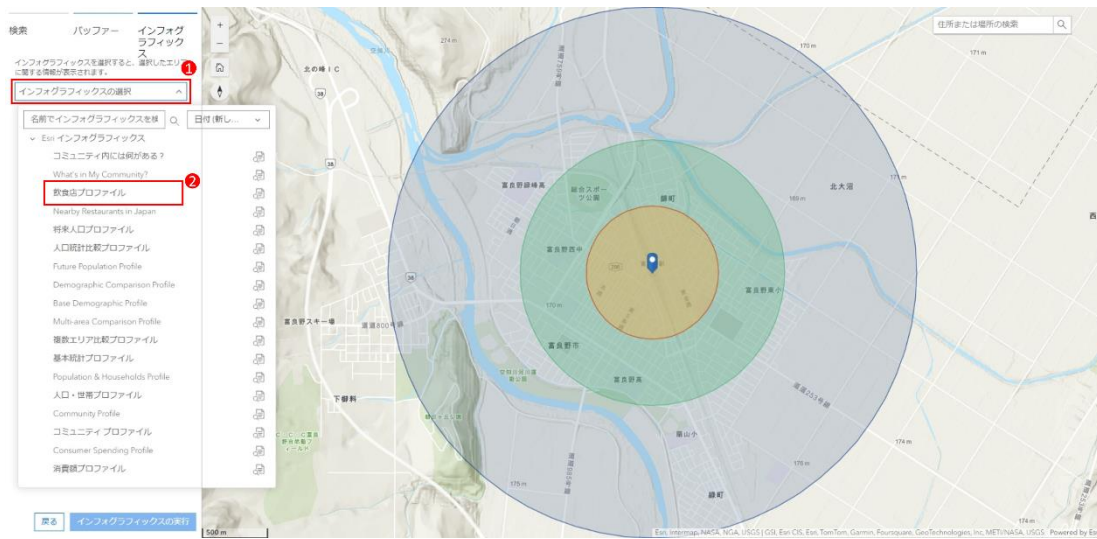
② [次へ] をクリックします。



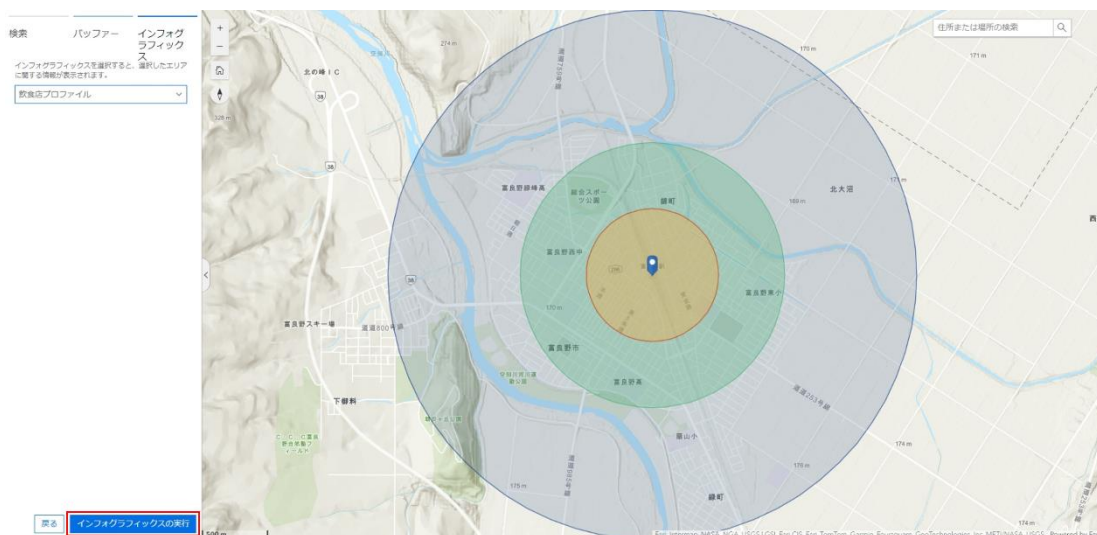
③ [バッファ] タブで任意のタブを選択します。ここでは、[リング] タブを選択して [半径] をそれぞれ「0.5」「1」「2」、単位をドロップダウン リストから [km] に変更し、[次へ] をクリックします。



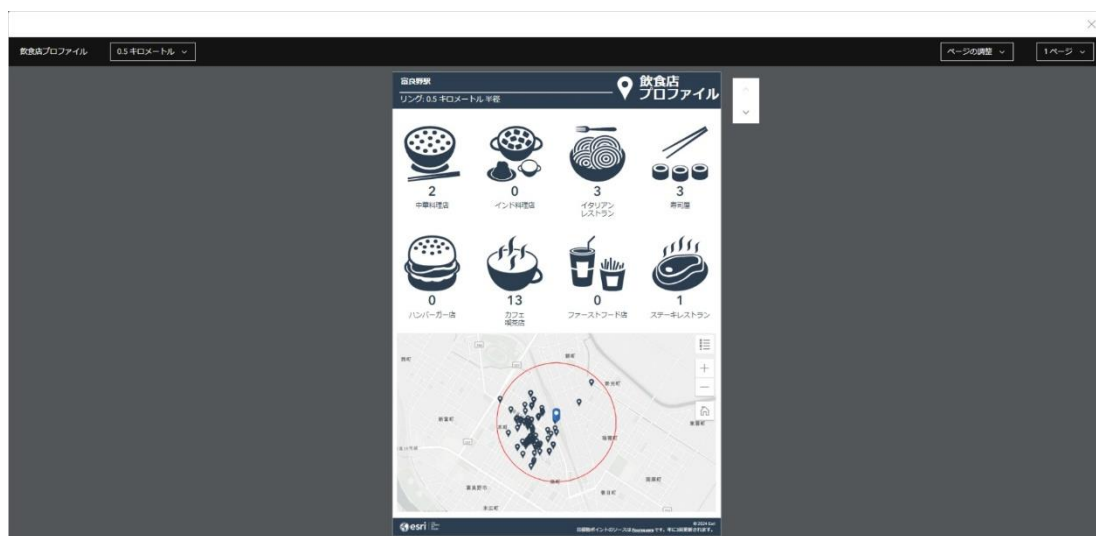
- ④ [インフォグラフィックス] タブで [インフォグラフィックスの選択] ドロップダウン メニューから [飲食店プロファイル] を選択します。



- ⑤ [インフォグラフィックスの実行] をクリックします。



⑥ インフォグラフィックスが作成されます。



このようなインフォグラフィックスをもとに、富良野駅を特集すべきか、徒歩何分圏で特集すべきかなど、会議で意思決定をすることができます。



Business Analyst ウィジェットの飲食店プロフィールに用いられる POI は、Foursquare をデータソースとしています。

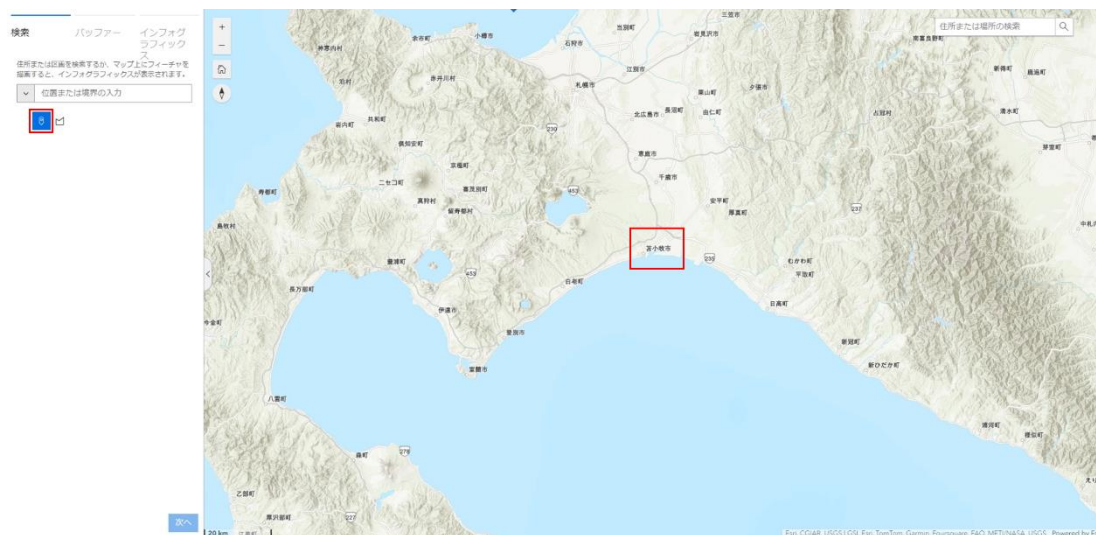
[Foursquare—Esri Demographics Reference | Documentation \(arcgis.com\)](https://www.esri.com/arcgis/storymaps/arcgis-demographics-reference)

Advanced ライセンスの ArcGIS Business Analyst Web App では、GIS データストアに掲載される POI を購入し使用することで、より高精度な集計を行うことができます。

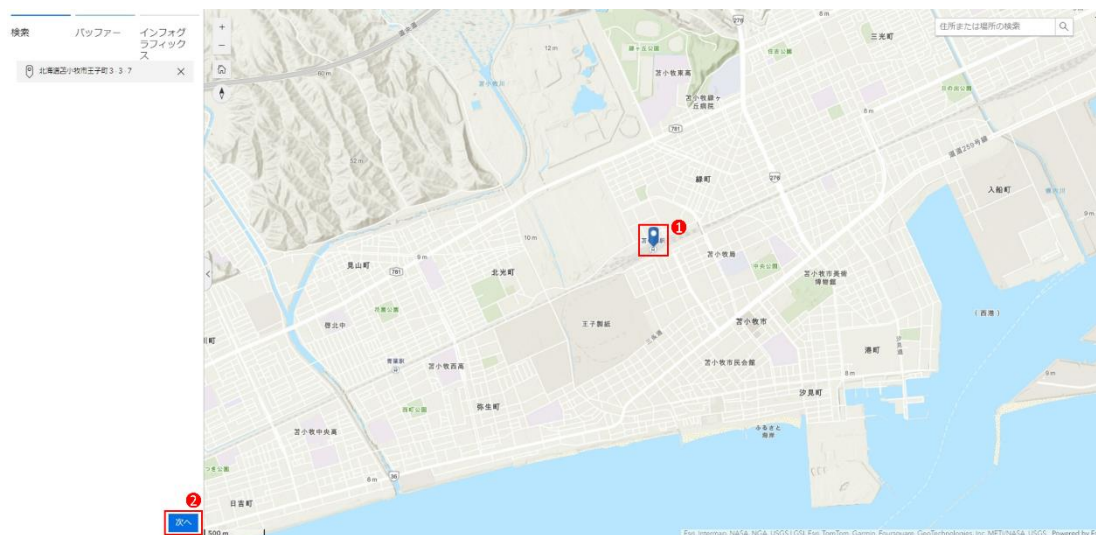
ステップ 2: ポイントの描画

任意の地点にポイントを描画し、その地点からバッファーおよびインフォグラフィックスを作成できます。

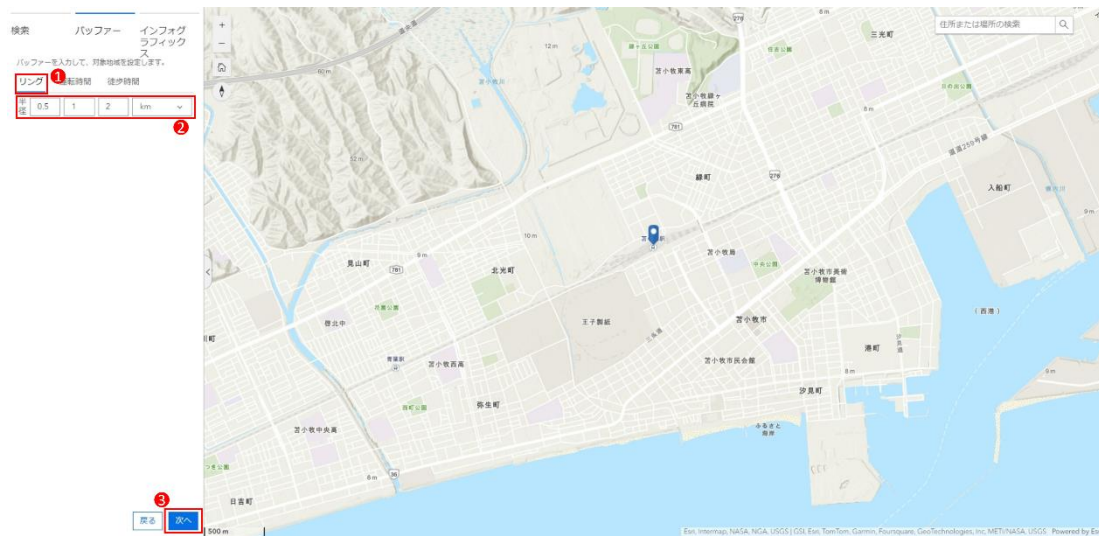
- ① 苫小牧市にズームし、[検索] タブの [ポイントの描画] をクリックします。



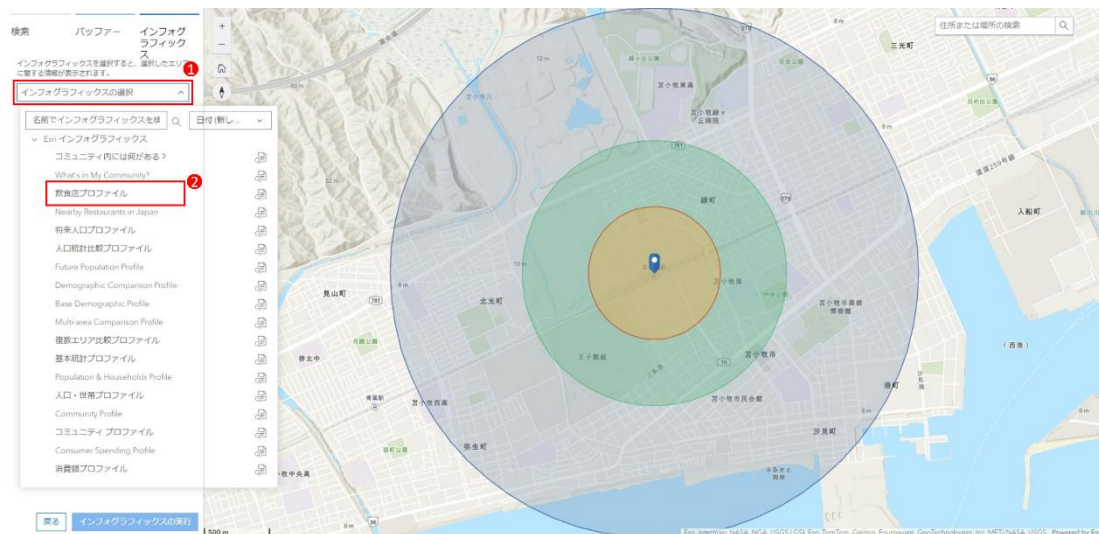
- ② マップ上の任意の場所をクリックします。ここでは、苫小牧駅をクリックして [次へ] をクリックします。



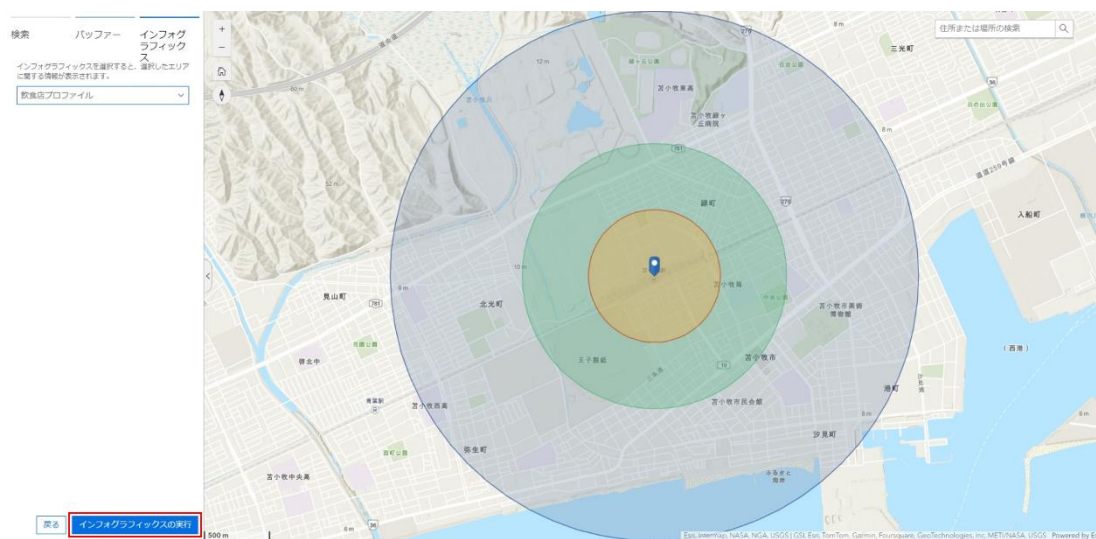
- ③ [バッファー] タブで任意のタブを選択します。ここでは、[リング] タブを選択して [半径] をそれぞれ「0.5」「1」「2」、単位をドロップダウン リストから [km] に変更し、[次へ] をクリックします。



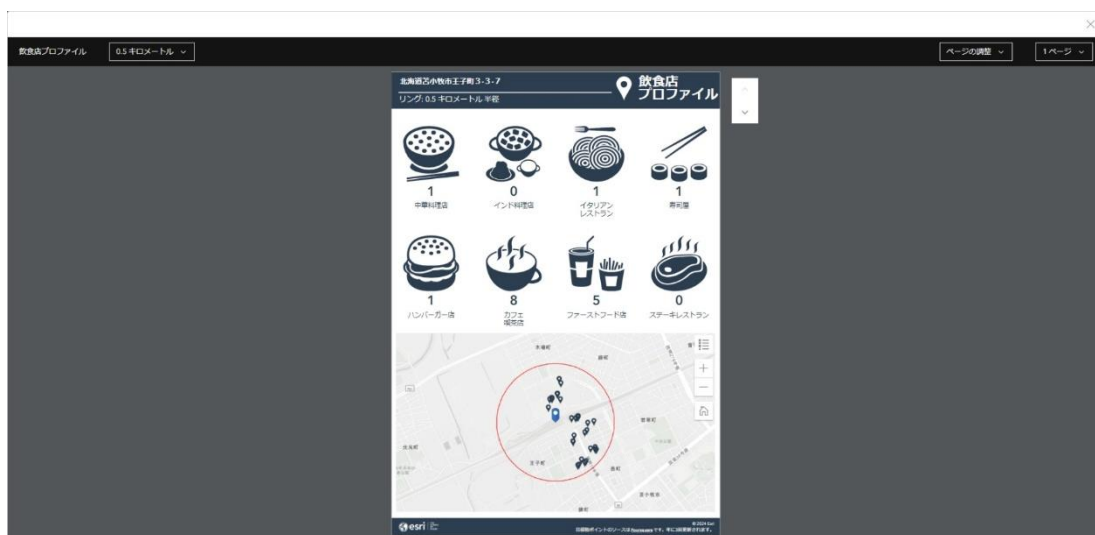
- ④ [インフォグラフィックス] タブで [インフォグラフィックスの選択] ドロップダウン メニューから [飲食店プロフィール] を選択します。



⑤ [インフォグラフィックスの実行] をクリックします。



⑥ インフォグラフィックスが表示されます。



このように、地名を検索する代わりにポイントを描画して検索することもできます。

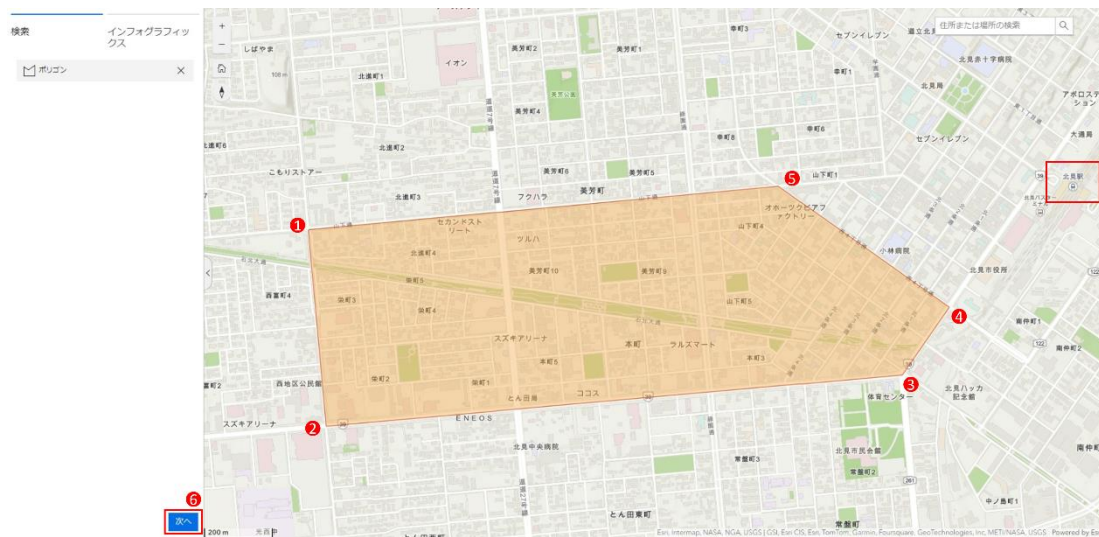
ステップ 3: ポリゴンの描画

任意の範囲にポリゴンを描画し、その範囲内を対象としたインフォグラフィックスを作成できます。

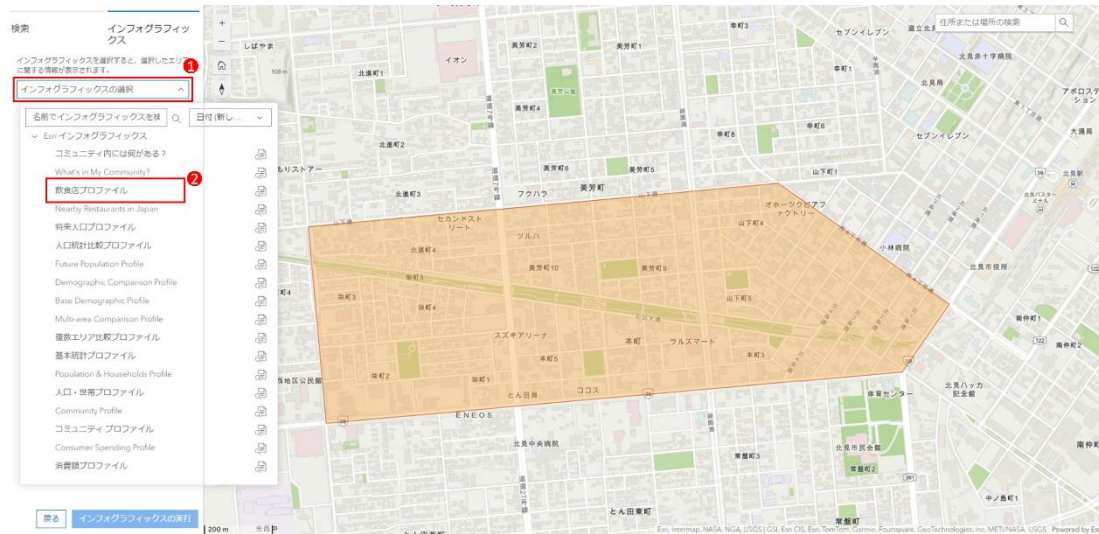
- ① 北見市にズームし、[検索] タブの [ポリゴンの描画] をクリックします。



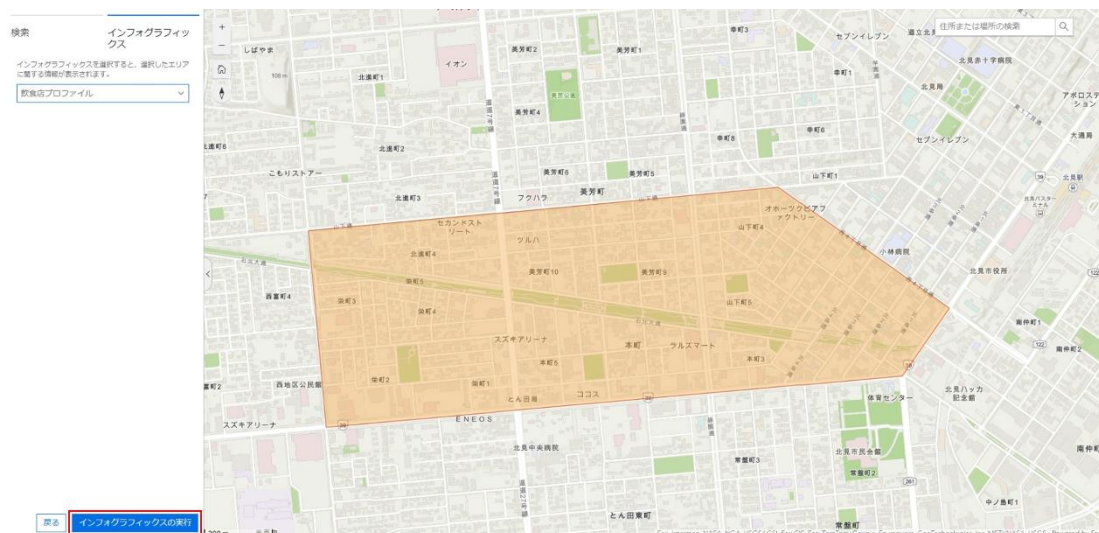
- ② マップ上の任意の場所でエリアを指定します。ここでは、北見駅の西側にポリゴンを作成して [次へ] をクリックします。



- ③ [インフォグラフィックス] タブで [インフォグラフィックスの選択] ドロップダウン メニューから [飲食店プロファイル] を選択します。



- ④ [インフォグラフィックスの実行] をクリックします。



- 本書に記載されている内容は予告無く変更される場合があります。
- 本書は、個人的かつ非商業的な目的に限り使用することができます。
- 本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を超え、無断で転用または複製することを禁じます。
- 本書の内容についての電話でのお問い合わせは、お受けしておりません。
- ArcGIS、ArcMap、ArcToolbox、Esri、ArcGIS ロゴ、Esri globe ロゴは、米国Esri 社の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Office、Access、Excel、Microsoft.NET Framework および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国その他の国における登録商標または商標です。
- Python は、Python Software Foundation の登録商標です。
- JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の商標または登録商標です。
- Adobe、Acrobat Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品、サービス名、ロゴマークなどは該当する各社の商号・商標または登録商標です。

書名	: ArcGIS® Experience Builder: Business Analyst ウィジェット ワークフローモード
発行日	: 2024 年 6 月 4 日 第 1 版
著作	: ESRIジャパン株式会社
発行	: ESRIジャパン株式会社 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-1 塩崎ビル
電話	: 03-3222-3941
FAX	: 03-3222-3946
URL	: https://www.esri.com/